

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	
2-3	施策名	青少年の健全育成	関係課	生活環境課、社会福祉課、児童福祉課、健康推進課、学校教育課、教育指導課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口		人	見込値	37,653	37,269	36,885	36,500	35,897
実績値					37,653	36,794				
②青少年人口				人	見込値	4,884	4,845	4,795	4,745	4,667
					実績値	4,884	4,642			
施策の意図		心豊かにたくましく育っている。	①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合	%	目標値	54.0	55.0	57.0	58.0	60.0
					実績値	51.1	52.5			
			②各種体験学習活動への参加者数(R4から新規)	人	目標値	468.0	470.0	480.0	490.0	500.0
					実績値	468.0	904.0			
③こども見守りボランティア登録者数(R4から新規)	人	目標値	180.0	200.0	200.0	200.0	200.0			
		実績値	187.0	199.0						
④「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数	店舗	目標値	110	112	115	117	120			
		実績値	110	100						
成果指標設定の考え方	心豊かにたくましく育っている成果指標については、①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合をアンケートにて調査。また、②各種体験学習活動への参加人数として、青少年対策事業等の体験活動の参加者人数を把握。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数の把握。									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の①桜川市人口は、毎年10月1日の常住人口。②青少年人口は、毎年4月1日の住民基本台帳による18歳未満の市民より求める。○①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、市民アンケートより求める。②各種体験活動への参加人数は、子ども会連合会における体験教室、わくわくチャレンジ、市民会議における各地区体験活動の実績より求める。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数は、「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数実績報告より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、令和4年度は51.1%だったが、令和5年度は52.5%と1.4ポイントの増加となった。令和4年度から指標とした各種体験活動の参加者数は904人の参加となり、436名の増加となった。同じく新規に指標としたこども見守りボランティアの登録者数については、目標200名に対し199名とほぼ目標通りとなった。青少年の健全育成に協力する店の登録店舗数は、前年度110店に対し100店舗で昨年度から減少している。成果が向上した要因としては、新型コロナが5類に移行したことから、各種体験活動が再開され、これまで制限されていたことによって参加者の意欲が高かったことが要因と考えられる。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は目標値を2.5ポイント下回った。各種体験活動の参加者数は、904人の参加となった。こども見守りボランティアの登録者数については、目標200名に対し199名とほぼ目標通りとなった。青少年の健全育成に協力する店登録店舗数については、廃業等により昨年度110店舗から10店舗減少となった。心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は目標値を少し下回っているが、全体の実績としては概ね目標通りであり、引き続き事業を展開していく。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>青少年の健全育成において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市子ども会育成連合会運営助成事業…新型コロナ5類移行により従来の活動を再開した。各種体験活動を実施し、数多くの児童生徒が参加している。</li> <li>・わくわくチャレンジ推進事業…近年地域の人材を活用したわくわくチャレンジ事業で実施する体験型教室の参加者が非常に伸びており、昨年度比で延べで約100人参加者が増加したことから、地域が関わって子どもたちの成長を促す取り組みが継続的にできている。</li> <li>・地域学校協働活動事業…令和5年度から始まった事業であり、地域と学校をつなぎ、ともに取り組むことで子どもたちの成長を促す仕組みとして開始された。地域ボランティアが学校に関わることで、地域と学校が一体となった新たな取り組みが期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生会については、コロナによる制限がなくなった今、会員を増やすこと他に、活動を本格化していく必要がある。高校生の自主的な活動による社会貢献の場や、魅力ある市づくり、郷土愛を育む活動などへの支援を図る。</li> <li>・子ども会事業やわくわくチャレンジ、市民会議などによる各種体験活動がコロナ禍前のように再開され、多くの参加が見られた。抑制されていた状況からの再開で参加意欲が高い状況を活かし、青少年の体験活動を積極的に企画していく。</li> <li>・高校生会と連携したり、今後は地元の人や施設などを活かした企画を行うことにより、子どもたちに地域との結びつきを感じてもらうことも検討する。</li> </ul>